

中川成美教授 略歴 主要著書・論文目録

専攻分野 日本近現代文学・文化研究

略 歴

- 一九五一年 東京都生まれ
- 一九七〇年 東京都立新宿高校卒業
- 一九七一年 立教大学法学部入学
- 一九七三年 立教大学文学部日本文学科三年編入
- 一九七五年 立教大学大学院文学研究科修士課程日本文学専攻入学
- 一九七六年 立教英国学院国語科教諭として赴任（英国サセックス州、一九七八年三月）
- 一九七八年 立教大学大学院文学研究科修士課程日本文学専攻二年次に復学
- 一九八〇年 立教大学大学院文学研究科博士課程日本文学専攻入学
- 一九八〇年 国立長岡工業高等専門学校一般教育科非常勤講師（一九八三年三月）
- 一九八二年 立教女学院短期大学非常勤講師（一九八七年三月）
- 一九八三年 神奈川日本近代文学館職員（一九八四年三月）
- 一九八四年 立教大学大学院文学研究科博士課程日本文学専攻単位取得満期退学
- 一九八四年 図書館情報大学（現筑波大学）非常勤講師（一九八七年三月）
- 一九八五年 東洋大学文学部非常勤講師（一九八七年三月）
- 一九八七年 同志社女子大学短期大学部常勤講師、のち助教授（一九九五年三月）
- 一九八九年 京都女子大学文学部、同短期大学部非常勤講師（一九九三年三月）
- 一九九〇年 同志社大学文学部非常勤講師（一九九四年三月）
- 一九九三年 近畿大学教養部非常勤講師（一九九四年三月）
- 一九九三年 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国際日本文化研究センター共同研究員（二〇二一年三月）

- 一九九四年 スタンフォード大学日本センター非常勤講師（一九九四年一～三月、一九九五年一～三月）
- 一九九五年 立命館大学文学部人文学科日本文学専攻助教授、翌年教授
- 一九九五年 同志社女子大学非常勤講師（～二〇〇二年三月）
- 一九九六年 大阪女子大学学芸学部、同大学院非常勤講師（～一九九七年三月）
- 一九九六年 富山大学人文学部非常勤講師（集中講義、一九九六年九月）
- 一九九七年 佛敎大学文学部非常勤講師（～二〇〇一年三月）
- 一九九九年 モントリオール大学客員研究員（一九九九年三～四月）
- 二〇〇二年 スタンフォード大学客員教授（～二〇〇三年三月）
- 二〇〇四年 立命館大学国際言語文化研究所長（～二〇〇九年三月）
- 二〇〇四年 奈良女子大学文学部非常勤講師（～二〇〇五年三月）
- 二〇〇九年 ホーチミン人文社会科学大学客員教授（二〇〇九年八月）
- 二〇〇九年 同志社大学非常勤講師（～二〇一〇年三月）
- 二〇一〇年 博士号取得（文学）立敎大学
- 二〇一一年 パリ第七大学招聘教授（～二〇一二年三月）
- 二〇一六年 ストラスブール大学客員教授（二〇一六年九月）

主な学内役職歴

- 文学部副学部長 （二〇〇〇年四月～二〇〇一年三月）
- 国際言語文化研究所長 （二〇〇四年四月～二〇〇九年三月）
- 衣笠総合研究機構副機構長 （二〇〇五年四月～二〇〇七年三月）
- 文学研究科長 （二〇一三年四月～二〇一四年三月）

主な所属学会

日本近代文学会会員
日本文学協会会員
昭和文学会会員
日本比較文学会会員
アメリカ日本文学会 (AJLS) 会員
アメリカアジア学会 (AAS) 会員
国際文学博物館会議 (ICOM) 会員
ヨーロッパ日本学会 (EJPS) 会員
国際比較文学会 (ICLM) 会員
横光利一文学会会員
林芙美子の会会員

〈研究業績目録〉

《著書》

単著

『語りかける記憶 文学とジェンダー・スタディーズ』小沢書店 一九九九年二月
『モダニティの想像力 文学と視覚性』新曜社 二〇〇九年三月

編 著

『日本近代文学を学ぶ人のために』世界思想社 一九九七年七月（上田博／木村一信／中川成美編）

「はじめに」一・二頁（共著）

「第三部 文学研究の可能性 七 同時代文学の研究」二〇〇・二〇四頁

「第四部 論文・レポートはどう書くか 六 図書館・文学館の利用と実際」二七九・二八六頁

「主要図書館・文学館一覧」三三九・三四三頁（外村彰作成、中川成美監修）

『高橋たか子の風景』彩流社 一九九九年二月（中川成美／長谷川啓編）

「まえがき 驚きに満ちたエクリチュール」一・四頁

「魂の遊歩者——『装いせよ、わが魂よ』論」一六五・一九二頁

『女性作家集 新日本古典文学大系 明治編 二三』岩波書店 二〇〇二年三月（高田知波／中川成美／中山和子校注）

「若松賤子 忘れ形見 校注」一八一・一九五頁

「北田薄水 乳母 校注」二〇五・二三八頁

「田沢稲舟 五大堂 校注」二三九・二七二頁

「三宅花圃 しのぶ草 校注」二七三・二八六頁

「補注（しのぶ草）」五〇〇・五〇二頁

「解説 斃れし女たちの遺せし言葉」五三七・五五三頁

「付録 若松賤子『忘れ形見』原詩（解説）」二頁

『労働のジェンダー化 ゆらぐ労働とアイデンティティ』平凡社 二〇〇五年三月（姫岡とし子／池内靖子／中川成美／岡野八代編）

「二〇 女性労働表象としての〈聖なるビッチ〉——ジョン・クロフォードとハリウッド映画産業の文化構造」二五五・三〇八頁

『日本文化研究における国際的データベース構築に関する基礎的研究』平成一六年度～平成一八年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書

二〇〇七年五月（課題番号：165201109、研究代表者：中川成美）

《論 文》

- 「『細雪』覚書」『立教大学日本文学』立教大学日本文学会 第四二号 一九七九年七月 六〇・六七頁
 「勝本清一郎の文壇登場期——文壇内左翼の形成——」『立教大学日本文学』立教大学日本文学会 第四五号 一九八〇年二月 二二・三〇頁
 「『赤色戦線』の旅——勝本清一郎滞欧の意味・序——」『昭和文学研究』昭和文学研究会 第三集 一九八一年六月 一四・二〇頁
 「ハリコフ会議経緯——勝本清一郎の役割を中心に——」『日本近代文学』三省堂 第二八集 一九八一年九月 二二四・二三六頁
 「一九三〇年代在欧知識人の一状況——勝本清一郎滞欧の意味——」『日本文学』日本文学協会 第三〇巻第一号 一九八一年一月 二八・四〇頁
 「芸術大衆化論争の行方(上)——一九三〇年代文学試論——」『昭和文学研究』昭和文学会 第五集 一九八二年六月 二一・二七頁
 「『駅夫日記』の世界——白柳秀湖とその周辺——」『立教大学日本文学』立教大学日本文学会 第四八号 一九八二年七月 四〇・四九頁
 「『欧州紀行』論への試み——横光利一の巴里——」『紀要』立教女学院短期大学 第一四号 一九八三年一月 一一七・一四一頁
 「芸術大衆化論争の行方(下)——一九三〇年代文学試論——」『昭和文学研究』昭和文学会 第六集 一九八三年二月 五二・五九頁
 「抒情の倫理——長谷健——」『九州時代』九州時代社 第一巻第四号 一九八三年七月 一六・二〇頁
 「林芙美子——放浪と回帰——」『九州時代』九州時代社 第一巻第五号 一九八三年八月 四〇・四六頁
 「アジアの文学博物館とその課題——インドの場合——」『MOUSEION』立教大学博物館研究』立教大学博物館学講座 No.29 一九八三年一〇月 五・八頁
 「南方熊楠論——博物への出発——」『信州白樺』信州白樺 第五七・五八合併号 一九八四年四月 五七・七〇頁
 「世界の文学博物館——その現在と未来——」『博物館研究』日本博物館協会 Vol.21 No.11 一九八六年一月 九・一五頁
 「林芙美子と其の時代——成瀬巳喜男作品から——」『昭和文学研究』昭和文学会 第一八集 一九八九年二月 七八・八七頁
 「横光利一・その生成の構図(一)——「日輪」の位置——」『同志社女子大学日本語日本文学』同志社女子大学日本語日本文学会 第一号 一九八九年三月 四二・五五頁
 「村上春樹、ジャズとロック——非在の森——」『国文学』解釈と教材の研究』学燈社 第三五巻第二号 一九九〇年二月 一三四・一三六頁
 「幻影の大地——島木健作『満州紀行』論——」小田切進編『昭和文学論考 マチとムラと』八木書店 一九九〇年四月 四五一・四七〇頁
 「貞淑で寛容な女神たち」『歴史読本』臨時増刊 特集のぞきみ日本意外史』新人物往来社 第三六巻第一二号 一九九一年六月 一四四・一五一頁
 「意識と身体の間にて——島崎翠『第七官界彷徨』——」『Et PUIS』白地社 第二三三号 一九九一年九月 一〇三・一〇六頁
 「秋声の声——山田順子考(一)——」『『仮装人物』を斬る』同志社女子短期大学日本語日本文学科学文学演習 一九九二年三月 一八七・二〇一頁
 「『夢の力』」関井光男(編)『中上健次 国文学解釈と鑑賞 別冊』至文堂 一九九三年九月 一三五・一四〇頁
 「モダニズムとしての私小説『仮装人物』の言説をめぐって」『国際日本文学研究集會會議録(第一六回)』国文学研究資料館 一九九三年一〇月 一一一

- 「第七章 戦後体制を超えて 第一節——想像力と言葉の冒険」喜多川恒男／鈴木貞美／平林一／山崎國紀／山田博光（編）『二十世紀の日本文学』白地社 一九九五年五月 二三五・二五二頁
- 「第七章 戦後体制を超えて 第二節——戦後体制の崩壊と批評の受容」喜多川恒男／鈴木貞美／平林一／山崎國紀／山田博光（編）『二十世紀の日本文学』白地社 一九九五年五月 二五三・二六二頁
- 「リトルマガジンの勢い——一九世紀メディアと国民国家の生成」『国文学 解釈と教材の研究』学燈社 第四〇巻一―二号 一九九五年九月 一〇〇・一〇四頁
- 「放浪・自己語り・女性——近代女性文学と語る欲望（二）——」『論究日本文学』立命館大学日本文学会 第六三号 一九九六年一月 三三・四二頁
- 「生命の風景——高橋たか子と「いのち」——」鈴木貞美（編）『生命』で読む二〇世紀日本文芸 国文学解釈と鑑賞 別冊』至文堂 一九九六年二月 二八八・二九八頁
- 「安西冬衛論——二〇世紀の言語的転回と『春』」澤正宏／和田博文（編）『都市モダニズムの奔流 「詩と詩論」のレスプリヌーボー』翰林書房 一九九六年三月 六八・七八頁
- 「林芙美子——女は戦争を戦うか」神谷忠孝／木村一信（編）『南方徴用作家——戦争と文学——』世界思想社 一九九六年三月 二三九・二五八頁
- 「こわれゆく女——ジェンダー・イデオロギーとしての〈愛の言説〉——」『昭和文学研究』昭和文学会 第三三集 一九九六年七月 四・二七頁
- 「国民国家の形成と「太陽」——海外情報欄をとおして」『日本研究』国際日本文化研究センター 第一五集 一九九六年二月 一二九・一三八頁
- 「ツーリズムと国民国家——書記される〈西欧近代〉——」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第八卷第三号 一九九七年一月 四五・六六頁（西川長夫／渡辺公三（編）『世紀転換期の国際秩序と国民文化の形成』柏書房 一九九九年二月 二三五・二六二頁に再録）
- 「新感覚派という〈現象〉モダニズムの時空」栗原幸夫（編）『廃墟の可能性——現代文学の誕生 文学史を読みかえる①』インパクト出版会 一九九七年三月 九四・一〇九頁
- 「家族のセクシャリティー 『杏っ子』 ●室生犀星」『国文学 解釈と教材の研究』学燈社 第四二巻第一二号 一九九七年一〇月 一〇二・一〇六頁
- 「モダニズムはざわめく——モダニティと〈日本〉〈近代〉〈文学〉——」『日本近代文学』日本近代文学会 第五七集 一九九七年一〇月 七六・八九頁（浅野洋（編）『日本文学研究論文集三三三 芥川龍之介』若草書房 一九九九年二月 一九九・二一七頁に再録）
- 「居場所のゆくえ——笠野頼子とノマディズム——」『日本文学』日本文学協会 第四六巻第一号 一九九七年一月 四三・五四頁
- 「不条理なまでに無力ということ 「慰安婦問題」とはなにをめぐる言説なのか」池田浩士（編）『大衆』の登場——ヒーローと読者の二十～三十年代 文学史を読みかえる②』インパクト出版会 一九九八年一月 二五二・二五六頁

「What's Happening to Sexuality? Corporeal Sensation in Matsura Rieko's Oyayubi P no shugyojidal」『PMAJIS (Proceedings of the Midwest

- 「展望 百五十年の孤独——日本における『共産党宣言』——」『日本文学』日本文学協会 第四八卷第一〇号 一九九九年一〇月 八三・八八頁
- 「父の息子・母の娘——日本近代文学と親子・家・家族」『立命館大学土曜講座 シリーズ六 文学にみる親子の葛藤と信頼』立命館大学人文科学研究 所 一九九九年一二月 一・二六頁
- 「思索の力と可能性——緊急動議・「純文学」論争——」『世界思想』世界思想社 第二七号 二〇〇〇年四月 四七・五一頁
- 「健三の「記憶」・漱石の「記憶」——「道草」との対話」玉井敬之(編)『漱石から漱石へ』翰林書房 二〇〇〇年五月 一七三・一九一頁
- 「漱石の二〇世紀——動く肖像写真」西川長夫／姜尚中／西成彦(編)『二十世紀をいかに越えるか 多言語・多文化主義を手がかりにして』平凡社 二〇〇〇年六月 二四三・二七三頁
- 「〈近代化主義〉というカノン——戸坂潤の文化批判を起点として——」『日本文学』日本文学協会 第四九卷第一一號 二〇〇〇年一月 五三・六四 頁
- 「The Fabricated Japan: Yokomitsu Riichi and Paris The Looping Effect Living Oshu Kiko and Ryosyu」Yochi Nagashima (編)『Return to Japan: From "Pilgrimage" to the West』Aarhus University Press 二〇〇一年九月 一五一・一六三頁
- 「提言 文学研究とカルチュラル・スタディーズ——〈文化研究〉とは何の謂いか——」『日本文学』日本文学協会 第五〇卷第一一號 二〇〇一年一月 五二・六三頁
- 「〈援助交際〉は買売春ではない?—性差無きアイデンティティーを求めて—」岡野幸江／長谷川啓／渡辺澄子(編)『買売春と日本文学』東京堂出版 二〇〇二年二月 三三〇・三四四頁
- 「恋愛と友情の弁証法——「薔薇」にヘテロ・セクシズムはない」『国文学解釈と鑑賞』学燈社 第六七卷第三号 二〇〇二年三月 二〇四・二〇七頁
- 「わが如きもの、わが如くして過ぬべき——近代女性文学と語る欲望(二)・樋口一葉——」『論究日本文学』立命館大学日本文学会 第七六号 二〇〇二年 五月 四四・五一頁
- 「近代における視覚性の変容と「日本文化」高階秀爾「日本人の美意識」論」田中実／須貝千里(編)『〈新しい作品論〉へ、〈新しい教材論〉へ 評論 編三 文学研究と国語教育研究の交差』右文書院 二〇〇三年二月 一一二・一三四頁
- 「アメリカ戦争を始める国で——アメリカ、法、モダニズム、そして日本文学」『国文学解釈と教材の研究』学燈社 第四八卷第五号 二〇〇三年四月 七九・八五頁
- 「展望 同じテクストを読む——日本文学研究と日本文学——」『日本近代文学』日本文学協会 第六八集 二〇〇三年五月 一三七・一四四頁
- 「ヴィジュアリティのなかの樋口一葉——文学的想像力とシネマ・イメージ」菅聡子(編)『女性作家《現在》』国文学解釈と鑑賞別冊』至文堂 二〇〇四年三月 三〇・四三頁

- 「人に見すべきものならぬ——一葉日記のクリティーク」『国文学 解釈と教材の研究』学燈社 第四九卷第九号 二〇〇四年八月 三六・四二頁
- 「もう一つの庭——『二つの庭』論」『国文学 解釈と鑑賞』至文堂 第七一卷第四号 二〇〇六年四月 一四九・一五七頁
- 「多喜二・女性・労働——「安子」と大衆メディア」神谷忠孝／北条常久／島村輝（編）『文学』としての小林多喜二 国文学解釈と鑑賞別冊』至文堂 二〇〇六年九月 一七五・一八七頁（『日本文化研究における国際的データベース構築に関する基礎的研究』に再録）
- 「否定の前の肯定・山田順子と秋声——近代女性文学と語る欲望（三）」『論究 日本文学』立命館大学日本文学会 第八五号 二〇〇六年二月 一・二二頁
- 「視覚という〈盲目〉——多和田葉子『旅をする裸の眼』の言語論的転回」『立命館文学』立命館大学人文学会 第六〇〇号 二〇〇七年三月 四一・五〇頁
- 「三・実践としての文学と理論——二一世紀からのフェミニスト批評とジェンダー理論」児玉実英／杉野徹／安森敏隆（編）『二〇世紀女性文学を学ぶ人のために』世界思想社 二〇〇七年三月 一二九・一三九頁
- 「『源氏物語』の文化イメージとヴィジュアルティ」小嶋菜温子・小峯和明・渡辺憲治（編）『源氏物語と江戸文化』森話社 二〇〇八年五月 三五八・三六二頁
- 「立命館大学所蔵 山田美妙関係資料について」『日本近代文学館年誌』日本近代文学館 第四号 二〇〇八年九月 六六・七九頁
- 「紀行文というリアリズム―虚子と日本語表現のリアリティ」『国文学・解釈と鑑賞』学燈社 第七四卷第一号 二〇〇九年一月 五七・六三頁
- 「Ein Europe der Verführung: Über Schwager in Bordeaux」『Études Germaniques』二〇一〇年三月 六五一・六六三頁
- 「〈大衆〉とは誰のことか―プロレタリア文学への行程」『国文学・解釈と鑑賞』学燈社 第七五卷第四号 二〇一〇年四月 六六・七五頁
- 「文学者・貴志山治とプロレタリア文学」貴志山治研究会編『貴志山治研究』不二出版 二〇一一年一月 九・二二頁
- 「〈座談会〉 日文研シンポジウム「日本語で書く―文学創作の喜びと苦しみ」総合討論」（ジェフリー・アングルス 伊藤守幸 稲賀繁美 鈴木貞美 トウンマ ン 武井典子 中川成美 細川周平 郭南燕）郭南燕（編）『Japanese Studies around the World 2010 世界の日本研究二〇一〇』国際日本文化研究センター 二〇一一年三月 一〇五・一二九頁
- 「視覚性のなかの文学——江戸川乱歩「鏡地獄」の世界」（特集 日本文学協会第六十五回大会（第二日目）イメージの物語）『日本文学』日本文学協会 第六〇巻第四号 二〇一一年四月 二一・一五頁
- 「文学的想像力へのみち―日本比較文学研究の状況と課題」日本比較文学会編『越境する言の葉―日本比較文学会創立六〇周年記念論集』彩流社 二〇一一年六月 一三・二二頁
- 「革命への夢―『比律賓独立戦話』あざむるなど』の世界」（小特集 山田美妙没後百年―草創期のメディアに生きて）『文学』岩波書店 第一二巻第六号 二〇一一年一月 二二一・二二二頁
- 「支配の言葉・融和の言葉―日本語文学という概念をめぐる」郭南燕（編著）『バイリンガルな日本語文学 他言語多文化のあいだ』三元社 二〇一三

年六月 二九二・三一頁

「林芙美子のパリ——ダンフェール境界——」（林芙美子 生誕一一〇年）『浮雲』林芙美子の会 第五号 二〇一三年一月 五・七頁

「SF的想像力と文学——笹野頼子の冒険」『論究日本文学』立命館大学日本文学会 第九九号 二〇一三年一月 一・一四頁

「林芙美子の詩的精神——抒情の発見」（特集 詩人林芙美子・生誕一一一年）『現代詩手帖』思潮社 第五七卷第四号 二〇一四年四月 七八・八二頁

「西川長夫『日本の戦後小説——廢墟の光』を考える——文学と戦争責任」（二〇一四年度国際言語文化研究所連続講座 西川長夫・業績とその批判的検討）

——（第一回「戦後日本文学と国民国家論——廢墟の光を求めて」）『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第二七卷第一号 二〇一五年一〇月 三・一三頁

「現代日本文学與性／別——「日本」・「近代」・「女性」・「文学史」」吳佩珍・崔末順・紀大偉（編）『台日韓女性文學——一場創作與發展的旅程』秀威經典

二〇一五年一二月 一三七・一四九頁（翻訳・吳亦昕）

「女性文芸映画というジャンル——その発端と終焉」中村三春（編）『映画と文学 交響する想像力』森話社 二〇一六年三月 一一・二六頁

《書評・解説・項目執筆等》

「実務実習の成果（NHK放送博物館実習の報告）」『MOUSEION』立教大学博物館研究』立教大学博物館学講座 No.21 一九七五年九月 三六・四八頁（共著）

「新刊紹介 長野誉一・志村有弘ほか著『谷崎潤一郎』古典と近代作家第一集」『立教大学日本文学』立教大学日本文学会 第四二号 一九七九年七月 五九頁

「現代作家を考える——小説の感動をめぐる——小林美代子と萩原葉子」『濫辞』立教大学近代文学研究会 第三号 一九七九年七月 三八・四四頁
「小田切進編 漱石文学人物事典」瀬沼茂樹（監修）『別冊太陽』平凡社 No.32 / AUTUMN, 80 一九八〇年九月 一七五・一八四頁（共著）「吾輩は猫である」から「野分」までを担当

「新刊紹介 小田切進著『文庫へのみち 郷土の文学記念館』」『立教大学日本文学』立教大学日本文学会 第四六号 一九八一年七月 七六頁

「日本文学年表」小田切進監修『ポケット日本名作事典』平凡社 一九八一年九月 二六九・二九九頁（新装版二〇〇〇年三月刊行）

「赤江瀑」「赤川次郎」「阿刀田高」「片岡義男」「小林久三」大久保典夫／吉田熙生（編）『新版現代作家辞典』東京堂出版 一九八二年七月 六・六・七、一四、一三三、二〇〇頁

「安土往還記」「有明集」「有吉佐和子」「女坂」「加賀乙彦」「倉橋由美子」「黒い雨」「元禄忠臣蔵」「幸田文」「女流文学」「千羽鶴」「多甚古村」「辻邦生」

- 「日本近代文学館」「人間の運命」「白羊宮」「春山行夫」「南小泉村」「宮柊二」「日本文学事典」平凡社 一九八二年九月 六、一一、一二、七〇、七三、一二七、一二八、一三八、一四二、二〇一、二〇二、二二九、二四四、二六二、二九二、三〇〇、三一〇、三一九、三七〇、三七二頁
- 「パリの横光利一」『東京新聞』東京新聞社 一九八二年一〇月一六日 夕刊三面
- 「文学に投影する「街」 会議に出席して雲困気どう記録 国際文学博物館会議」『朝日新聞』新潟地方版 朝日新聞社 一九八二年一〇月一八日 夕刊三面
- 「第五回国際文学博物館会議総会に出席して」『博物館研究』日本博物館協会 Vol.18 No.5 一九八三年五月 二七・三二頁
- 「九州武将伝―黒田長政」『財界九州』財界九州社 第七一六号 一九八四年四月 九五・九八頁
- 「女・九州路―徳富愛子」『財界九州』財界九州社 第七三〇号 一九八五年六月 一〇〇・一〇一頁
- 「女・九州路―神近市子」『財界九州』財界九州社 第七三五号 一九八五年一月 九八・九九頁
- 「花田―吉本論争」『群像』講談社 第四一卷第九号 一九八六年九月 三三六・三三七頁（小田切進編「論争小事典」内）
- 「壺谷―吉本論争」『群像』講談社 第四一卷第九号 一九八六年九月 三四八・三四九頁（小田切進編「論争小事典」内）
- 「黒田如水」「黒田長政」「常陸坊海尊」「漫遊記」乾克己／小池正胤／志村有弘／高橋貢／鳥越文蔵（編）『日本伝奇伝説大事典』角川書店 一九八六年一〇月 三三五、三三六、七三六・七三七、八三七・八三八頁
- 「純粹小説論」『日本文芸鑑賞事典 第一一卷』ぎょうせい 一九八七年二月 四七五・四八四頁
- 「小泉八雲」「坪内逍遙」「森鷗外」「谷崎潤一郎」「室生犀星」「太宰治」志村有弘他（編）『説話文学史』明治書院 一九八七年四月 一五一・一五二、一五二、一五三、一五三、一五四、一五五、一五六、一六〇頁
- 「日輪」『日本文芸鑑賞事典 第七巻』ぎょうせい 一九八七年二月 二二七・二二六頁
- 「文学博物館と古書籍」『京古本や往来』京都古書研究会 第三九号 一九八八年一月 二・四頁
- 「現代日本文学史年表」大久保典夫／高橋春雄／保昌正夫／薬師寺章明（編）『現代日本文学史』笠間書院 一九八八年一月 二九七・三一頁
- 「秋元松代」「円地文子」「曾野綾子」「林芙美子」「平林たい子」浦西和彦／浅田隆／太田登（編）『奈良近代文学事典』和泉書院 一九八九年六月 九・一〇、四五・四六、一七〇、二五二、二五九頁
- 「これでわかる、いま読める、海外現代批評理論の五十冊」『シコウシテ』白地社 第二一号 一九八九年九月 一七八・二〇三頁（現代批評研究会（浅子逸男、小野康男、木股知史、後藤尚人、真鍋正宏、高桑法子、種田和加子、田野村忠温、出口逸平、中川成美、中山昭彦、森本隆子、吉村健一、和田桂子、和田博文）共著。ヴィクトル・シクロスキー『散文の理論』ツヴェダン・トドロフ『小説の記号学』、ヤン・ムカジヨフスキー『チェコ構造美学論集』、水野忠夫編『ロシア・フォルマリズム文学論集一、二』を担当）
- 「近代日本文学の光と影（私の研究）」『同志社時報』同志社大学広報課 第八七号 一〇四・一〇五頁
- 「宇野千代」山田有策（編）『近代文学 二』学術図書出版社 一九九〇年二月 一一三・一二〇頁

- 「分担箇所不明」村松定孝／渡辺澄子（編）『現代女性文学辞典』東京堂出版 一九九〇年一〇月
- 「激動の世界旅行」『彷彿月刊』弘隆社 一九九〇年一〇月号 二・四頁（与謝野寛・晶子「巴里より」、三宅克己「欧州写真の旅」、高浜虚子「渡仏日記」を担当）
- 「書評 北条常久著『種蒔く人』研究―秋田の同人を中心として」『日本近代文学』日本近代文学会 第四七集 一九九二年一〇月 一七五・一七七頁
- 「文豪と京都⑤川端康成」『創造する市民』京都市社会教育振興財団 第三三三号 一九九二年一〇月 一五・一六頁
- 「書評 中村三春著『言葉の意志 有島武郎と芸術史的転回』『フィクションの機構』『比較文学』日本比較文学会 第三七卷 一九九五年三月 一八八・一九一頁
- 「書評 日高昭二著『文学テクストの領分 都市・資本・映像』『昭和文学研究』昭和文学会 第三二集 一九九六年二月 一五八・一六〇頁
- 「石田波郷」『葛西善蔵』朝倉治彦／三浦一郎（編）『世界人物逸話大事典』角川書店 一九九六年二月 八〇、二四四頁
- 「書評 佐々木冬流著『伊藤整研究―新心理主義文学の顛末』』立教大学日本文学』立教大学日本文学会 第七六号 一九九六年七月 六〇・六二頁
- 「春季大会所感」『日本近代文学会 会報』日本近代文学会 第八五号 一九九六年九月 一七・二二頁（十重田裕一、山本康次、阿毛久芳、真鍋正宏、中川成美、中村三春共著）
- 「書評 小森陽一著『出来事として読むこと』』日本近代文学』日本近代文学会 第五五集 一九九六年一〇月 二七五頁
- 「さやけき月は誰の上に照るのか―「十三夜」私見―」『日本近代文学会 会報』日本近代文学会 第八六号 一九九七年四月 一一・一二頁
- 「世界の文学館と文学博物館」『館報 日本近代文学館』日本近代文学館 第一六〇号 一九九七年一月 五頁
- 「書評 平川祐弘・萩原孝雄編『日本の母 崩壊と再生』』『芸芸広場』第一法規 平成一〇年五月号 一九九八年五月 三一頁
- 「論文・レポートのテーマのつけ方」論文・レポート作成必携編集委員会編『近代文学現代文学論文・レポート作成必携』学燈社 一九九八年七月 一三五・一四〇頁（別冊国文学第五一号）
- 「思想の現在形 ジェンダー・フェミニズム番外編 性意識の不均衡な構造 男女二元論からの脱却を」『京都新聞』京都新聞社 一九九八年七月七日 朝刊一三面
- 「行ってみたい世界の文学館」『週刊朝日百科 世界の文学 第一号特別付録』朝日新聞出版 一九九九年七月 一、二二・二四頁
- 「『雪の下』について―「生活戦」のなかの「国民生活」』『梨の花通信』中野重治の会 第三三三号 一九九九年九月 三・四頁
- 「開高健」浅井清／佐藤勝／篠弘／鳥居邦朗／松井利彦／武川忠一／吉田熙生（編）『新研究資料現代日本文学 第二卷 小説Ⅱ』明治書院 二〇〇〇年一月 一四四・一四七頁（田村欽一／中川成美著）
- 「ピーター・B・ハイ『帝国の銀幕―十五年戦争と日本映画』』木村一信（編）『戦時下の文学―拡大する戦争空間 文学史を読みかえる④』インパクト出版会 二〇〇〇年二月 二四六・二四九頁

- 「文学で癒しが可能か?」『醸界春秋』醸界通信社 No.57 二〇〇〇年三月 一一一・一二五頁
- 「書評 文学研究の位置と感情——プロレタリア文学とモダニズムを繋ぐ——」『日本近代文学』日本近代文学会 第六二集 二〇〇〇年五月 二四一・二四九頁
- 「急停車」「新聞紙」「私の中の二十五年」松本徹／井上隆史／佐藤秀明(編)『三島由紀夫事典』勉誠出版 二〇〇〇年十一月 八六・八七、一九三、一九四、四三三・四三四頁
- 「江種満子・井上理恵編『二十世紀のベストセラーを読み解く——女性・読者・社会の百年』」『国文学 解釈と鑑賞』至文堂 第六六卷第一〇号 二〇〇一年一〇月 二〇〇頁
- 「文学の始原の場所へ——山内由紀人著『神と出会う——高橋たか子論』」『群像』講談社 第五七卷第八号 二〇〇二年七月 三九六・三九七頁
- 「鶏園」「計算した女」井上謙／神谷忠孝／羽鳥徹哉(編)『横光利一事典』おうふう 二〇〇二年一〇月 九二・九三、九四頁
- 「土井淑平 尾崎翠と花田清輝 ユーモアとパロディの論理」『週刊読書人』株式会社読書人 第二四五六号 二〇〇二年一〇月四日 四頁(尾崎翠 フォーラム実行委員会(編・発行)『尾崎翠フォーラム in 鳥取2003報告集』二〇〇三年二月 七四頁に再録)
- 「観光 ツーリズム」西川長夫／大空博／姫岡とし子／夏剛(編)『グローバル化を読み解く88のキーワード』平凡社 二〇〇三年四月 六七・六九頁
- 「ジュディス・バトラー＋エルネスト・ラク라우＋スラヴォイ・ジジエク『偶発性・ヘゲモニー・普遍性——新しい対抗政治への対話』」『国文学 解釈と教材の研究』学燈社 第四八巻第一〇号 二〇〇三年八月 三二・三四頁
- 「天皇と天皇帝の楔をこえて——田所泉著『昭和天皇の和歌』『歌くらべ 明治天皇と昭和天皇』『大正天皇の〈文学〉』『梨の花通信』中野重治の会 第四七号 二〇〇三年九月 一四・一七頁
- 「解説 林房雄『都会双曲線』」『都会双曲線 新・プロレタリア文学精選集 第九巻』ゆまに書房 二〇〇四年六月 一・五頁
- 「輝ける闇」「夏の闇」「裸の王様」「パニック」「風琴と魚の町」「放浪記」「開高健」「林芙美子」浅井清／佐藤勝編『日本現代小説大事典』明治書院 二〇〇四年七月 九六・九七、一九五・一九六、七五一・七五二、八三〇・八三一、八四八・八四九、九〇八・九〇九、九五三・九五四、二二〇〇、一三二四頁
- 「コレスポンドエンスー『国民国家論の射程』をめぐって——はじめに」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一六巻第二号 二〇〇四年一〇月 一四七頁
- 「追悼 芹澤光興」『横光利一文学会 会報』横光利一文学会 第六号 二〇〇四年一月 一頁
- 「書評 中山和子著『漱石・女性・ジェンダー』(中山和子コレクション)』『日本文学』日本文学協会 第五三巻第一二号 二〇〇四年二月 五四・五五頁
- 「『今日の文学』第一節「小説」」鈴木貞美(編)『日本文藝史 第八巻』河出書房新社 二〇〇五年一月 二二九・二三八頁

- 「今日の文学」第四節「批評」 鈴木貞美（編）『日本文藝史 第八卷』河出書房新社 二〇〇五年一月 二四七・二五〇頁
- 「笹野頼子」「田沢稻舟」市古夏生／菅聡子（編）『日本女性文学大事典』日本図書センター 二〇〇六年一月 一五二・一五三、一八七頁
- 「特集〈文学と視覚性〉序」『立命館文学』立命館大学人文学会 第六〇〇号 二〇〇七年三月 四〇頁
- 「短信―どこにもない町―」『立教大学日文ニュース』立教大学日本文学会 第七号 二〇〇七年五月一七日
- 「『格差社会』の深層に潜むもの フォーラム京」『京都新聞』京都新聞社 二〇〇七年九月二四日 朝刊一七面
- 「解説 文学的想像力としての裸の眼」多和田葉子『旅をする裸の眼』講談社文庫 二〇〇八年一月 二八〇・二九〇頁
- 「私流この偉人 京滋の歴史から六四 哲学者 戸坂潤」『京都新聞』京都新聞社 二〇〇八年二月一七日 朝刊七面
- 「忘れられた物語 全二十六回連載」『京都新聞』京都新聞社 二〇〇八年四月二七日～一月二五日 朝刊
- 「巴里の横光利一」『横光利一文学会 会報』横光利一文学会 第一四号 二〇〇八年二月 一頁
- 「謝辞…二十年の歩みの中から」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第二〇卷第三号 二〇〇九年二月一・三頁
- 「巻頭言 蜃気楼の町」『浮雲』林芙美子の会 第一号 二〇〇九年一月 一頁
- 「思い出 ミリアム・シルバーバーグ氏を偲んで」(「アジア現代女性史」編集委員会)『年報 アジア現代女性史』アジア現代女性史研究会 第五号 二〇〇九年一二月 三九・四一頁
- 「書評 栗原幸夫著『わが先行者たち』」『週刊読書人』株式会社読書人 二〇一一年一月七日 三面
- 「〈座談会〉 日文研シンポジウム「日本語で書く―文学創作の喜びと苦しみ」総合討論」(ジェフリー・アングルス 伊藤守幸 稲賀繁美 鈴木貞美 トウンマン 武井典子 中川成美 細川周平 郭南燕)『Japanese Studies around the World 2011 世界の日本研究 2010』国際日本文化研究センター海外研究交流 室 二〇一一年三月 一〇五・一二九頁
- 「はじめに 文学的想像力へのみち」『越境する言の葉：世界と出会う日本文学：日本比較文学学会創立六〇周年記念論文集』日本比較文学会 二〇一一年六月 一三・二二頁
- 「中村三春『新編 言葉の意志―有島武郎と芸術史的転回』」『週刊読書人』株式会社読書人 二〇一一年六月三日 四面
- 「書評 九頭見和夫『日本の「人魚」像』『日本書紀』からヨーロッパの「人魚」像の受容まで』」『週刊読書人』株式会社読書人 二〇一二年五月一日 五面
- 「書評 倉田容子著『語る老女 語られる老女―日本近現代文学にみる女の老い』」『昭和文学研究』昭和文学会 第六三号 二〇一一年九月 七八・八一頁
- 「書評 領家高子『なつ―樋口一葉 奇跡の日々』」『週刊読書人』株式会社読書人 二〇一三年六月二一日 七面
- 「オーギュスト・コント通りの横光利一」『横光利一文学会 会報』横光利一文学会 第二三三号 二〇一三年七月 一頁

- 〔書評〕 上野俊哉『思想の不良たち——一九五〇年代 もう一つの精神史』『週刊読書人』株式会社読書人 二〇一三年九月二十七日 四面
- 〔生きることの自責（ギルティ）…原爆文学を考える』（二〇一二年度秋季企画）第二回「真空の文学・表象としてのカタストロフィ」』立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第二五卷第二号 二〇一四年一月 三九・四二頁
- 〔書評〕 千葉一幹『宮沢賢治すべてのさいはひをかけてねがふ』『週刊読書人』株式会社読書人 二〇一五年二月二〇日 五面
- 〔書評〕 松本和也著『昭和一〇年代の文学場を考える——新人・太宰治・戦争文学』『週刊読書人』株式会社読書人 二〇一五年七月三日 五面
- 〔忘れられた記憶——戦争の文学再読』『京都新聞』京都新聞社 二〇一四年一〇月六日～二〇一六年三月二十八日 朝刊
- 〔資料紹介〕横光利一、小林茂宛て書簡について』『横光利一文学会 会報』横光利一文学会 第二九号 二〇一六年七月 六頁
- 〔石原深予著『尾崎翠の詩と病理』』『昭和文学研究』昭和文学会 第七二集 二〇一六年三月
- 〔フェイ・阮・クリーマン著『通り過ぎるなかで——植民地東アジア文化の場所の構図』』『日本研究』国際日本文化研究センター 第五四集 二〇一七年一月 一三七・一四〇頁
- 〔〈枠組み〉のなかで思考する研究者の主体の問題を問う 日比嘉高『文学の歴史をどう書き直すのか 二〇世紀日本の小説・空間・メディア』』『週刊読書人』株式会社読書人 二〇一七年二月十七日 五面
- 〔「土人」とは誰のことか』『越境広場』越境広場刊行委員会 第三号 二〇一七年二月二十八日 六四・六五頁
- 《講演・シンポジウム・座談会記録》**
- 〔討論〕中山和子／江種満子（編）『ジェンダーで読む『或る女』 総力討論』翰林書房 一九九七年一〇月 一二二・一四八頁（出席者…江種満子（司会）、井上理恵、岩渕宏子、小林富久子、三田憲子、千田洋幸、中川成美、中山和子、藤森清、松下浩幸、山田芳明、吉川豊子、与那覇恵子）
- 〔〈非常時〉の文学——「昭和十年前後」をめぐる』長谷川啓（編）『転向』の明暗——「昭和十年前後」の文学 文学史を読みかえる③』インパクト出版会 一九九九年五月 四・三五頁（座談会 小沢信男／栗原幸夫／加納実紀代／中川成美／長谷川啓）
- 〔父の息子・母の娘——日本近代文学と親子・家・家族——』立命館大学土曜講座シリーズ六 文学に見る親子の葛藤と信頼』立命館大学人文科学研究 一九九九年一二月 一・二六頁（一九九九年七月三日 第二四七八回 立命館大学土曜講座）
- 〔〈講演〉語りかける記憶 文学とジェンダー・スタディーズ』『城西文学』城西大学女子短期大学部文学会 第一七卷第一号 二〇〇〇年三月 六四・八一頁
- 〔墮落というモラル——敗戦後空間の再検討』川村湊（編）『戦後』という制度——戦後社会の「起原」を求めて 文学史を読みかえる⑤』インパクト

出版会 二〇〇二年三月 四・三六頁（座談会 井口時男／中川成美／林淑美／川村湊）

「**シンポジウム**」横光利一とヘテロ・セクシズムの機構」『国文学 解釈と鑑賞』至文堂 第六七巻第三号 二〇〇二年三月 一九七・二一三頁（石田 仁志／吉田司雄／中川成美／安藤恭子／飯田祐子／田口律男）

「踊る娘・嘆きの母——ジョーン・クロフォードとハリウッド映画の女性労働象」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一四巻 第三号 二〇〇二年一月 三四・四九頁（特集 公開シンポジウム プロジェクトAⅠ 労働のジェンダー化）

「コメント」『立命館大学日本学研究所年報』立命館大学日本学研究所 第二号 二〇〇三年三月 一一五・一一七頁（特集 日本文化の境界と交通線——二〇〇一年国際シンポジウムの記録——第三セッション 男の女・女の男——ジェンダーの境界／共著）

「公開シンポジウム プロジェクトAⅠ 労働のジェンダー化 パート二」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一五巻第一号 一・五六頁（開会挨拶／第二部司会）

「第二回 映画『青〜chong〜』と最新作について」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一六巻第一号 二〇〇四年六月 二九・四五頁（特集連続講座「国民国家と多文化社会」第一四シリーズ コリアン・ディアスポラ——交差する多様な表現）

「咲き揃う女／母／労働者——「道標」期前後の宮本百合子テキストに見る女性表象——」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一六巻第二号 二〇〇四年一月 二五・五一頁（黒澤亜里子との共著・コメント担当／特集 公開シンポジウム プロジェクトAⅠ 労働のジェンダー化 パート三 アンペイド・ワーク）

「同時代人としての知里幸恵と宮沢賢治——はじめに——」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一六巻第三号 二〇〇五年二月 一四三・一四四頁（特集 春季企画／連続シンポジウム 先住民という言葉に内実を与えるためにシンポジウムⅣ）

「春季企画「Dazai O」——太宰治を知ること——」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一八巻第一号 二〇〇六年八月 三・四頁（春季企画シンポジウム Dazai O.——太宰治とその生涯をめぐって——）

「コメントおよび質疑応答」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一八巻第一号 二〇〇六年八月 二五・三三頁（春季企画シンポジウム Dazai O.——太宰治とその生涯をめぐって——）

「はじめに」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一九巻第一号 二〇〇七年九月 三・四頁（特集一 連続講座「国民国家と多文化社会」第一七シリーズ「グローバルゼーションと植民地主義」）

「はじめに」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一九巻第三号 二〇〇八年二月 一・二頁（特集一 連続講座「国民国家と多文化社会」第一六シリーズ「帝国の孤児たち——二十世紀の日本語作家」第一回西欧 帝国の影のもとに）

「在欧左翼知識人の軌跡」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一九巻第三号 二〇〇八年二月 九・一七頁（特集一 連続講座「国民国家と多文化社会」第一六シリーズ「帝国の孤児たち——二十世紀の日本語作家」第一回西欧 帝国の影のもとに）

- 「コメントおよび質疑応答」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一九卷第三号 二〇〇八年二月 一九・三一頁（特集一 連続講座「国民国家と多文化社会」第一六シリーズ「帝国の孤児たち―二十世紀の日本語作家」第一回西欧 帝国の影のもとに／共著）
- 「米軍再編」と沖繩 対論』『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一九卷第三号 二〇〇八年二月 三三・四〇頁（特集一 連続講座「国民国家と多文化社会」第一六シリーズ「帝国の孤児たち―二十世紀の日本語作家」第二回「米軍再編」と沖繩『Marines Go Home』上映会およびシンポジウム／共著・挨拶）
- 「コメントおよび質疑応答」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一九卷第三号 二〇〇八年二月 七一・八六頁（特集一 連続講座「国民国家と多文化社会」第一六シリーズ「帝国の孤児たち―二十世紀の日本語作家」第三回アジア 上海の養女たち／共著・司会）
- 「コメントおよび語り」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第一九卷第三号 二〇〇八年二月 一五九・一七二頁（特集二 プロジェクト創生企画 国際日本文化学術交流会／共著・コメント）
- 「小林多喜二における《大衆》」オックスフォード小林多喜二記念シンポジウム論文集編集委員会（編）『多喜二の視点から見た身体（Body）・地域（region）・教育（education）』二〇〇八年オックスフォード小林多喜二記念シンポジウム論文集』小樽商科大学出版会 二〇〇九年二月 五二・六〇頁
- 「〈シンポジウム〉《コロキアム》 鄔其山・Lyseum・上海ゲッター」（横光利一文学会第九回研究集会 「特集 東アジアネットワークの中の横光利一」『横光利一研究』第七卷 二〇〇九年三月 五〇・八一頁（大橋毅彦、金泰日景、崔真碩、中川成美）
- 「はじめに」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第二二卷第一号 二〇〇九年八月 三・六頁（特集 連続講座「国民国家と多文化社会」第一九シリーズ「格差拡大社会とグローバリズム」／共著・挨拶）
- 「はじめに」（特集 連続講座「国民国家と多文化社会」（第十九シリーズ） 格差拡大社会とグローバリズム）『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第二二卷第一号 二〇〇九年八月 三・六頁（中川成美、岡野八代）
- 「東南アジアとの通路をいかに拓いていくか―日本文学・文化研究の交換と共軌の探求に向けて」『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第二二卷第三号 二〇一〇年一月 一・三頁（国際ワークシヨップ 東南アジアとの通路―日本文学・文化研究理論を考える―）
- 「東南アジアとの通路をいかに拓いていくか―日本文学・文化研究の交換と共軌の探求に向けて」（国際ワークシヨップ―東南アジアとの通路―日本文学・文化研究理論を考える）『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第二二卷第三号 二〇一〇年一月 一・三頁
- 「視覚性のなかの文学」（第六五回大会・発表要旨）『日本文学』日本文学協会 第五九卷第一〇号 二〇一〇年一〇月 八五頁
- 「国家エネルギーとしての石炭」（上映会&シンポジウム「三池終わらない炭鉱（やま）の物語」）『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 第二二卷第二号 二〇一〇年一月 一・二頁
- 「コメントおよび質疑応答」（上映会&シンポジウム「三池終わらない炭鉱（やま）の物語」）『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所

- 第二二卷第二号 二〇一〇年十一月 六三・七三頁 (中川成美(司会) 熊谷博子、神谷雅子、友田義行、雨宮幸明、茶園梨加)
- 「日本文学研究の国際的な理論構築に向けて」 「アジア新時代の南アジアにおける日本像・インド・S A A R C 諸国における日本研究の現状と必要性」 国際日本文化研究センター 二〇一一年三月 (“International Symposium in India”)
- 「〈シンポジウム〉村上春樹と小説の現在」 村上春樹は世界文学か日本文学か―近代化過程と文学の表現をめぐって― 日本近代文学会関西支部編 『村上春樹と小説の現在』 和泉書院 二〇一一年三月 一四・二九頁
- 「〈シンポジウム〉村上春樹と小説の現在」 全体討議 日本近代文学会関西支部編 『村上春樹と小説の現在』 和泉書院 二〇一一年三月 (高木彬、中川成美、石原千秋、千野帽子、飯田祐子、黒田大河) 五八・八六頁
- 「視覚性のなかの文学―江戸川乱歩「鏡地獄」の世界」 『日本文学』 日本文学協会 第六〇巻第四号 二〇一一年四月 二・一五頁 (特集 日本文学協会 第六五回大会(第二日目) イメージの物語)
- 「質疑応答」 (国際日本文化研究理論研究会：日本文学研究理論の構築・フランス) 『立命館言語文化研究』 立命館大学国際言語文化研究所 第二三巻第一号 二〇一一年九月 一六一・一七二頁 (司会・西成彦 コメント・西川長夫、中川成美)
- 「はじめに」 (国際日本文化研究理論研究会：日本文学研究理論の構築・フランス) 『立命館言語文化研究』 立命館大学国際言語文化研究所 第二三巻第一号 二〇一一年九月 一四九頁
- 「〈シンポジウム〉映画の表現、文学の表現―比較文学からの視野」 『日本比較文学会東京支部研究報告』 日本比較文学会東京支部 第八号 二〇一一年九月 三一・三三頁 (中川成美、小宮彰、川口恵子)
- 「シンポジウム 日本文学の翻訳におけるジェンダーの諸問題 ―シンポジウム「テキスト・ジェンター・文体―日本文学が翻訳されるとき―」を終えて―」 『国際日本文化研究集會会議録』 国文学研究資料館 第三七巻 二〇一四年三月 二九一・二九七頁
- 「総括」 『国際日本文化研究集會会議録』 国文学研究資料館 第三八巻 二〇一四年三月 二九一・二九四頁
- 「特集趣旨―徹底討論「春は馬車に乗って」を終えて―」 『横光利一研究』 横光利一文学会 第一二号 二〇一四年三月 一・三頁
- 「クイア理論と日本文学―欲望としてのクイアリーディング」 『立命館言語文化研究』 立命館大学国際言語文化研究所 第二八巻第二号 二〇一六年二月 一・四頁

《口頭発表・講演等》

- 「昭和四年の勝本清一郎」立教大学日本文学会大会 一九八〇年六月
- 「勝本清一郎の在欧体験とその役割」日本文学協会第一回研究発表大会 一九八一年七月
- 「ワイマール末期における在欧日本人の動向」ワイマール研究会月例会 一九八二年三月
- 「Japanese Literary Museum」アジア文学系博物館会議第一回大会 一九八二年二月
- 「The situation of Literary Museum in Japan and the question of the value on book」国際文学博物館会議第一〇回年次総会 一九八七年九月
- 「細雪」の世界」京都市社会教育総合センター講演 一九八八年一月
- 「憂鬱なる人々―林芙美子のパリ」日本比較文学会西日本大会 一九八八年二月
- 「漂う浮雲―異郷としての戦後―」日本文学協会第七回研究発表大会 一九八九年七月
- 「雑誌『セルバン』の周辺」日本比較文学会関西支部二月例会 一九九〇年二月
- 「京都と女性文学―円地文子・林芙美子・瀬戸内晴美など―」京都市社会教育総合センター講演 一九九〇年三月
- 「Vision of Strange Land The Cosmos of Japanese Travel」国際比較文学会世界大会（東京青山学院大学） 一九九一年七月
- 「Writing Abroad- Japanese Modern Woman Writers Discourse-The Lineage of Self」第五回ヨーロッパ日本学会議（ベルリン日独文化センター）
一九九一年九月
- 「モダニズムとしての私小説―「仮装人物」の言説をめぐって―」第一六回国際日本文学研究集会（国文学研究資料館） 一九九二年十一月
- 「「誘惑」の京都―川端康成―」京都市社会教育総合センター講演 一九九三年一〇月
- 「林芙美子とジーン・ライス」比較文学会関西支部例会 一九九四年十二月
- 「明治期文化における対欧米観」国際日本文化研究センター特定研究「日本文化のセルフイメージ」シンポジウム 一九九五年三月
- 「アジアの戦争と文学者」立命館大学文学部戦後五〇年シンポジウム 一九九五年二月
- 「西欧イメージの形成と戦争」国際日本文化研究センターシンポジウム 一九九六年三月
- 「Politicizing Manga: the Scope and Limits of Contemporary Japanese Comics」AAS年次総会／Discussant 一九九六年四月
- 「アメリカの日本研究の現在」比較文学会関西支部例会 一九九六年四月
- 「物語のモダニティー」立命館大学日本文学会大会 一九九六年六月
- 「国家・言語・民族・越境する日本語」日本比較文学会関西支部大会シンポジウム 一九九六年十一月
- 「Paradox of Modernity」カンサス大学 Visuality in Japanese Culture 一九九七年四月

- 「文学表現の同時性と境界」文学史を読みかえる会雑誌創刊シンポジウム 一九九七年五月
- 「ちやけき月は誰の上に照るのか」「十三夜」私見―日本近代文学会六月発表例会 一九九七年六月
- 「Nomadism and the Postmodernity Hyperimagination in the Work」ヨーロッパ日本研究協会 (E A J S) 第八回 一九九七年八月
- 「Shono Yoriko's Imaginative Hypertexts: Word Other and Gender in the Postmodern World (Gender/Time and Fantasy in Modern Japanese Fiction)」アメリカアジア学会 (A A S) 第五〇回大会 ワシントン D.C. 一九九八年三月
- 「The Fabricated Japan Yokomitsu Fitchi and Paris 1936」コペンハーゲン大学「日本回帰」会議 一九九八年九月
- 「『書』」(二〇〇二) 第一九回中野重治研究と講演の会 明治学院大学 一九九八年一〇月
- 「Sexuality Love Queer Studies Reading of Matsuura Rioko's OYAYUBI P NO SYUGYO JIDAI」MAJIS 年次総会 プルデュー大学 一九九八年一月
- 「一九七〇年代以降の小説を考える」大阪市立北区市民教養ルーム成人大学 一九九九年一月
- 「これからの小説の可能性」大阪市立北区市民教養ルーム成人大学 一九九九年三月
- 「Japanese Films in 1950's」マギル大学(招待講義) 一九九九年三月
- 「Dreams Double Bodies and Hypertextuality / Hypervisuality in The Recent Work of Shono Yoriko」モントリオール大学現代大衆文化学会 一九九九年三月
- 「Japanese Women's modern Literature and Gender Studies」Lecture for graduate students スタンフォード大学 一九九九年四月
- 「語りかける記憶」城西大学女子短期大学講演 城西大学 一九九九年七月
- 「父の息子、母の娘 - 日本近代文学と家族」立命館大学土曜講座 立命館大学 一九九九年七月
- 「Debates upon What is Serious literature:visuality in Japanese High / Mass Culture」Colorado Japan seminar コロラド大学 一九九九年一月
- 「Modernism Modernity and Japanese Modern Literature」UCLA 日本研究センター講演 一九九九年一月
- 「Visuality of Desire in gender trouble」アメリカアジア学会 (A A S) シカゴ 二〇〇一年三月
- 「恋愛と友情の弁証法―『薔薇』にへテロ・セクシズムはない」横光利一文学会第二回研究集会 同志社大学 二〇〇一年九月八日
- 「Crossroad of Poeticity and Narrativity In Modern Women's Writers」A J L S 第十一回年次大会 プルデュー大学 二〇〇二年一〇月
- 「How Literature Recalls and Narrates The Memory of War: Kazuo Ishiguro and History Description」国際日本研究センター北米セミナー バンフ 二〇〇二年一月
- 「Narrative Desire in Japanese Women's Literature」コロラド大学講演 二〇〇二年二月
- 「Modernization of Japanese Literature Subjectivity narrativity and Visuality」ワシントン大学講演 二〇〇三年一月

- 「Where Do We Go from Here? Gender Studies And Contemporary Japanese Literature」インディアナ大学講演 二〇〇三年二月
- 「Modernity is Stirring: Diversity of Japanese Literature in 1920's」コロロンビア大学講演（ブラウンバック） 二〇〇三年二月
- 「Trouble in Mind: Gender in Japanese Contemporary Literature」ウエーズレー大学講演 二〇〇三年二月
- 「Trouble in Mind: Gender in Japanese Contemporary Literature」ハーバード大学講演 二〇〇三年二月
- 「カルチュラル・スタディーズの可能性と限界」（文化研究のルビとしてのカルチュラル・スタディーズ）パネラー」日本比較文学会 第六五回大会
福岡大学 二〇〇三年六月
- 「シンポジウム「戦後」論の現在——文学を再配置する」（ディスカッサント）」日本近代文学会春季大会 駒沢大学 二〇〇四年五月
- 「女性作家たちの昭和—プロレタリア文学再検討—」立命館大学土曜講座 立命館大学 二〇〇五年五月七日
- 「映画というテキストを読む—身体・五感・想像力—（ディスカッサント）」日本近代文学会秋季大会 國學院大学 二〇〇五年一〇月
- 「シンポジウム「伊藤整とモダニズム」（パネラー）」日本比較文学会第四一回関西大会 二〇〇五年一二月
- 「ジェンダー／セクシュアリティをめぐる経験と言説」カルチュラルタイフーン2006 北沢区民会館「北沢タウンホール」二〇〇六年七月一日
- 「在欧知識人の軌跡」立命館大学国際言語文化研究所連続講座第一六シリーズ「帝国の孤児たち」二〇〇六年一〇月
- 「第二セッションシンポジウム「凶像・ジェンダー・源氏文化」（コメンテーター）」立命館大学 日本文学科創設50周年国際シンポジウム「21世紀の日本
文学研究」立命館大学 二〇〇六年一月四日（講師：中嶋隆、稲本万里子、立石和弘、渡辺雅子 コメンテーター：中川成美、鈴木登美、エステ
ル・レジエリ・ボエール）
- 「須賀敦子の霧と光」立命館大学国際言語文化研究所・イタリア国立東方学研究所共催「イタリア観の一世紀」コンファレンス 二〇〇七年六月二九、
三〇日
- 「日本人のイタリア紀行—西欧文化の根源へ—」立命館大学土曜講座 立命館大学 二〇〇七年六月九日
- 「日仏国際研究シンポジウム「集と断片」シンポジウム・パネラー」人間文化研究機構国文学資料館・コレージュ・ド・フランス共催 二〇〇七年九月
二五日
- 「文学・明治二十年前後」シンポジウム・パネラー」立命館大学図書館開設百周年記念シンポジウム 二〇〇七年一月一六日
- 「グローバリゼーションのなかの孤独な巨人、乱歩」第二回国際乱歩コンファレンス 立命館大学 二〇〇七年二月七、九日
- 「Kirino Natsuo's Japan: The Fall and the Resurrection（ディスカッサント）」第一二回 EAJIS国際会議レッツェ・イタリア大会 二〇〇八年九月
二一日
- 「Joint Seminar with Shigemitsu Nakagawa and Barbara Sato」UCLA日本研究センター招聘講演 二〇〇八年一〇月六日
- 「第二回 格差社会と文学——桐野夏生を読む（司会・ディスカッサント）」国際言語文化研究所二〇〇八年度秋季企画連続講座「国民国家と多文化

- 社会」第一九シリーズ「格差拡大社会とグローバリズム」二〇〇八年一月
- 「ベトナムにおける日本研究とその現状(司会担当)」二〇〇八年度第三回 国際日本文化研究理論研究会 二〇〇八年十二月
- 「日本文化研究理論の互換・交換は可能か?(ディスカッサント)」立命館大学国際言語文化研究所 ProjectA4 国際日本文化研究理論研究会 二〇〇八年十二月
- 「顔貌性の神話―ジェンダー偏差と暴力」二松学舎大学東アジア学術総合研究所共同プロジェクト 日本文学の「女性性」第六回公開ワークショップ 二〇〇九年二月
- 「Anthropology and Literature: The Colonial Journey of Sato Haruo (ディスカッサント)」KYOTO LECTURES 2009 京都大学 二〇〇九年四月二三日
- 「The Seduction of Europe on “The Brother in Law of Bordeaux”」多和田葉子国際コロキウム ツール・フランソア・ラブレール大学 二〇〇九年五月
- 「Conversion (s): New Perspectives on Tenkō and Tenkō Bungaku (ディスカッサント)」Inter-Asia Cultural Typhoon 2009 東京外国語大学 二〇〇九年七月四日
- 「カルチュラル・スタディーズ実践の場としての Cultural Typhoon in Kyoto (鳥木圭太とともに)パネル発表」Inter-Asia Cultural Typhoon 2009 東京外国語大学 二〇〇九年七月五日
- 「戦後を生きる―忘れ去られた者たちと文学―」立命館大学土曜講座 立命館大学 二〇〇九年七月一八日
- 「日本文学研究の国際的な理論構築に向けて」ジャワハルラル・ネルー大学日本研究セミナー・国際日本文化研究センター日本研究セミナー インド・ニューデリージャワハルラル・ネルー大学 二〇〇九年十一月
- 「笹野頼子の想像力の冒険―意識・身体・感覚―」昭和文学会二〇一〇年度秋季大会 法政大学 二〇一〇年十一月一三日
- 「Literary imagination in Visuality: Japanese Modern Literature and Modernity」SOAS Russell Square: College Buildings 二〇一一年一月一九日
- 「Ageism and Sexuality」AJLS タフツ大学 二〇一一年一月六日
- 「くちなし忌(中野重治を偲ぶつどい)第三三回式典・記念講演会」福井県坂井市図書館中野重治文庫 二〇一二年八月
- 「母と娘は和解できるのか?―ケアの文学的課題をめぐって・『母の遺産 新聞小説』論―(パネル発表)「困繞する、あるいは拘束する愛―現代女性文学におけるケアする／される主体―」」日本近代文学会秋季大会 ノートルダム清心女子大学 二〇一二年一〇月二八日(共同発表者…泉谷 瞬・中川成美・武内佳代・佐伯順子)
- 「旅する視覚―海外紀行文という領域―」立命館大学土曜講座 立命館大学 二〇一三年二月二三日
- 「The End of Women's Literary Film: Naruse Mikio's Hourouki (1962) and Imamura Shohei's Nippon Konchuki (1963)」ベネチア大学国際シンポジウム Rethinking of Nature ハーバード大学 二〇一四年一月一七日

- 「女優と監督―五〇年代女性映画の構造―」第一回 現代日本〈映画・文学〉 関連研究会 北海道大学東京キャンパス 二〇一三年六月二三日
- 「見える風景・見えない風景―カズオ・イシグロと原爆文学―」日本比較文学会第四九回関西大会 徳島大学 二〇一三年三月八日
- 「女性文芸映画というジャンル ―一九六〇年代日本映画の変容について―」第三回 現代日本〈映画・文学〉 関連研究会 北海道大学 二〇一四年六月二九日
- 「Nature as a Problematic Concept in Japanese Literature: Looking for Reality」ベネチア大学国際学会招待講演 二〇一四年三月一八日
- 「徹底討論「春は馬車に乗って」(ディスカッサント)」横光利一文学会第一三回研究集会 東洋大学 二〇一三年八月二五日
- 「市川崑監督『ごころ』におけるクィアな欲望(ごころ)」Soseki Diversity ミシガン大学 二〇一四年四月二〇日
- 「不在の原因」としての原発 [Is Escape Possible? Sono Sion's Land of Hope (Kibô no Kuni) and the March 11 Disaster]] 第一五回EAS (ヨーロッパ日本研究協会) リュブリヤナ 二〇一四年四月二六日
- 「川端康成と女性文芸映画」第四回 現代日本〈映画・文学〉 関連研究会 信州大学 二〇一四年六月二九日(ラウンドテーブル:中川成美、友田義行、米村みゆき、志村三代子)
- 「川端康成の関西と異郷」二〇一四年度大阪・京都文化講座 後期第六回 立命館大阪オフィス 二〇一四年一月一七日
- 「Nuclear as a gesture: Yoko Tawada's "The Lantern Keeper"」アメリカアジア学会(AAS) シカゴ 二〇一五年三月二七日
- 「Edogawa Rampo et les effets visuels—actualites et influences du pionnier du roman policier japonais」パリ第七大学講演会 二〇一五年五月五日
- 「近代天皇制と文学(パネル発表)」日本近代文学会二〇一五年度春季大会 東京大学 二〇一五年五月三十一日(共同発表者:山田俊治、宗像和重、林淑美、谷川恵一、中川成美)
- 「文芸映画の予見性 ―文学を可視化すること―」第七回 現代日本〈映画・文学〉 関連研究会 北海道大学 二〇一五年七月四日
- 「隔絶のない特殊性:コミックスと文学、そして映像研究」第七回国際学術会議「コミコロジ―理論と実践を絡み合わせる新『研究』」京都国際マンガミュージアム 多目的映像ホール 二〇一五年九月二七日(石田美紀、ジャクリヌ・ベルントとのパネル発表)
- 「ドイツにおける日本文学の研究(コメンテーター)」国際日本文化研究センター 第一二七回シンポジウム 国際日本文化研究センター 二〇一五年一月二〇日(講演者:イルメラ・日地谷キルシュネライト、コメンテーター:中川成美、谷口幸代、稲賀繁美、坪井秀人)
- 「女性文芸映画」という問題系 ―文学と映画の出会いの場所― 現代日本〈映画・文学〉 関連研究会《交響する》現代日本における映画と文学 東京工業大学 二〇一五年二月五日
- 「Who Can Define "Women's Literary Cinema"? - Where Literature and Film Meet」Conference Text and Film in Interaction ベルリン自由大学 二〇一六年二月二五日

「林芙美子のトラベルライティング」〔林芙美子と旅〕 林芙美子の会 第一回研究会 立命館大学 二〇一六年二月二一日

「トラベルライティングというジャンル設定について」国際シンポジウム「トラベルライティングという機構―他者への視線」立命館大学 二〇一六年三月二三日

「比較文学とトラベルライティング―ブラジル移民の日本紀行」日本比較文学会関西支部二〇一六年四月例会 帝塚山学院大学 二〇一六年四月一六日

「Edogawa Ranpo et les effets visuels—actualités et influences du pionnier du roman policier japonais」パリ第七大学講演 二〇一六年五月五日

「Why Japanese are so “sweet” to native Taiwanese: Justice and Sympathy」アメリカアジア学会（AAS）アジア大会 同志社大学 二〇一六年六月二六日

「Natsume Soseki - Japanese great novelist and a film of his novel 『Kokoro』」フランス大学会館講演会 二〇一六年九月一九日

「怪物たちの眠れない夜―江戸川乱歩とヒロ・グロ・ナンセンス（第三セッション AU-DELA DE RANPO ―Images et subversion ―）」Edogawa Ranpo ou les labyrinthes de la modernité japonaise パリ デイドロ大学 二〇一六年一〇月一四日（セッション発表者：巽孝之、中村三春、中川成美）

「戦前期京都のモダニズム」大阪・京都文化講座「昭和の風俗・風物・風景―忘れられた昭和史―」大阪大学 二〇一六年一二月二一日

（二〇一七年二月現在。口頭発表・講演については、発表の日付が不明なものは年月のみとする）

（作成＝栗山雄佑・岩本知恵・中井祐希・宮田絵里・安藤陽平）

